

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Summer2021

Vol. 51

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJYUEN

TOPICS

HOJYUEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOJYUEN×FAMILY



トピックス
T O P I C S

新型コロナワクチン接種を実施しました！

6月22日、24日に利用者様、職員の新型コロナワクチン接種1回目を実施しました。当日は、嘉麻赤十字病院 目野院長ご協力のもと、希望された利用者様、職員にワクチン接種を行いました。2回目は7月13日、15日に実施しました。ご家族や関係者の皆様には、今後の状況によって引き続きご不自由やご心配をおかけいたしますが、引き続き感染症対策へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



利用者様の健康診断を実施しました！

6月29日、30日に利用者様の健康診断を実施しました。医務課を中心に準備をすすめ、当日は円滑なうちに終了することができました。検査結果で嘱託医からの指示等があれば個別にご家族へご連絡させていただきます。

今年度第1回目の消防訓練を実施しました！

6月9日、今年度第1回目の消防訓練を実施しました。当日は、平日の 日中に出火した想定で初期消火、通報、避難誘導などの手順を確認しました。



母の日



5月 母の日の行事を行いました。たくさんのお母さん達に楽しんでいただこうと、職員によるフラダンスやカーネーションのプレゼントののち、職員が考えたお母さんへの手紙を朗読しました。聞きながら涙を流される方も多く、思い出に残る一日になりました。

端午の節句

父の日



5月 園内に飾ったこいのぼりと一緒に記念撮影を行いました。



七夕



6月 母の日の翌月は父の日の行事。豊寿園の食欲旺盛なお父さんたちは、ビールを片手に餃子や焼き鳥で宴会を楽しまれました。



7月 短冊に思いおみの願い事を書いていただきました。

デイサービス

お散歩



4月 遠くには出かけられないので園庭を散歩。

厨房イベント



4月 厨房職員が関東風桜餅を作ってくれました。

習字



4月 筆先に集中して…きれいな字が書けました。

作品づくり



5月 こいのぼりの作品を作りました。

野菜苗植え



6月 デイの中庭に野菜の苗を植え付けました

おやつ作り



6月 フルーツパフェを作りました。

地域ぶらり情報



●バナナジュースへのこだわり バナナをじっくり寝かせ、一番おいしい時期を見極めます。熟成させたバナナの香りと甘さを楽しんでいただくために、砂糖や香料は使わず、牛乳または豆乳でシンプルに仕上げました。お好みで、熟成バナナと相性抜群！相乗効果でさらに美味しくなるゴマや抹茶、きなこ、あんこなどのトッピングも楽しめます。

あとがき

新型コロナのワクチン接種が広がり、豊寿園でも利用者様、職員の接種を終えました。これまで「自分が罹ってしまったらどうしよう・・・」という見えない恐怖や不安を抱えながらの日々だったので、少し気持ちが楽になった気がします。しかしながら、気を緩めることなくこれまでと同様に感染症対策には公私ともに万全を期していきたいと思えます。なんだかんだでオリンピック色になってきた今、思い出すのはアトランタオリンピックでサッカー代表が起こしたマイアミの奇跡。圧倒的劣勢の中、強豪ブラジルを1対0で撃破した試合です。サッカー好きな高校生だった私はテレビの前で叫んだのを思い出します。東京オリンピックでも、感染症対策は十分にとった上で、同じような熱戦が繰り広げられることを期待せずにはいられません。

実は、豊寿園でも日々小さな奇跡が起きています。そんな数々はこの「豊かな樹」でご紹介していきます。今後も豊寿園にご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹

看板娘は70歳のお母さん

門司港で一番大きな商店街 栄町銀天街から横に入った栄小路に、バナナジュース専門店『てるちゃんのバナナジュース』が4月にオープンしました。テイクアウトのみの小さなお店です。門司港駅からは徒歩5分。門司港駅周辺のレトロ地区を散策した後に、ふらっと立ち寄れる距離です。70歳の看板娘“てるちゃん”とは、門司港でご主人とお店を営みながら7人の息子を育てあげたパワフルなお母さんです。きらきらした笑顔で、気持ちがいいほど大きな声で笑う“てるちゃん”はその場の空気をあつという間に明るくしてしまう町の人気者シニアです。『私のような元気なシニアでも素敵なメニューがあればやりがいを持って活躍できるのでは？』そんな思いから、路地沿いの小さなお店を始めたそうです。バナナジュースを作りはじめたのは、六男 勇太さんの小学生の時の闘病生活がきっかけでした。勇太さんがご飯が食べれない時期に「栄養のあるものを食べさせたい」と、“てるちゃん”が作ったのがバナナジュースでした。そんなお袋の味『てるちゃんのバナナジュース』をきっかけに「門司港がもっと地域の元気なシニアが活躍し、観光客や地域の人々との交流の場となるよう、私も頑張りたいです。」と“てるちゃん”。てるちゃんの店番は数時間ですので、逢えるかどうかはお楽しみ。“てるちゃん”の元気と、おいしいバナナジュースを味わいに、門司港散策のついでに、ぜひ一度足を運んでみてくださいね。

バナナ専門店
てるちゃんの
バナナジュース
北九州市門司区栄町75
営業日 毎週金・土・日曜日
OPEN 11:00~17:00
TEL 080-8374-2042
(営業時間内のみ)



今回表紙を飾ってくれたのは、豊かな樹専属カメラマンの城戸匡美さん（デイサービス）です。これまでの表紙写真すべてを撮影してきた彼女が満を持して表紙を飾るべく、一人で自撮りに出かけてくれました。

あなたと向き合った日々

HOJYUEN × Family

今回は、昨年8月に豊寿園でお看取りさせていただきました磯野トキ子様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族了解のうえ、奥水介護課長の手記をもとにご紹介します。



今回ご紹介する磯野トキ子様。看取り対応開始後に、ご家族と一緒に撮ったお写真です。

「あのおばあちゃん大丈夫??」と思うほどフラフラした歩き方をしている、と思ったら磯野さんだった・・・

門司のご自宅で独居生活を送られていた磯野さんは、平成26年11月より豊寿園のショートステイを利用開始されました。当時すでに認知症は日常生活に影響を与える程度でしたが、バスの定期券を利用して、小倉の商業施設まで買い物に行かれるほど活動的でした。門司港で横断歩道を渡ろうとしているお年寄り。「あのおばあちゃん大丈夫???」と思うほどフラフラした歩き方をしている、と思ったら磯野さんだった、ということが何度もありました。ショートステイから帰宅した際、職員

がご自宅に忘れ物を取りに戻ると、すでに磯野さんの姿はなく玄関は開けっ放しに。帰ってすぐに買い物に出かけたようでお買い物は習慣化していたようです。当時の口ぐせは「ちらし寿司を作つてあげる」でした。いつか本当に自慢のちらし寿司を作つてもらいたい、と思つたものでした。

「発熱や誤嚥で入院がみられ、活動的だった磯野さんは車いすでの生活に変わっていきました。」

そんな活動的な磯野さんが肺炎を患い入院され、退院後はより歩くことが不自由になったことから在宅復帰が困難となり、入所を見越したショートステイを再開されました。その間も入院を繰り返し、その都度、機能の低下がみられていきました。その後、ショートステイから特養へ入所となりましたが、発熱や誤嚥での入院は続き、活動的だった磯野さんは車いすでの生活に変わっていきました。

その後、肺炎をきつかけに痰の吸引も必要になっていきました。平成31年2月ころ、食べることが大好きだった磯野さんが、食事中にむせたり痰が絡むことが増えていき、少ない量でカロリーが摂取できる嚥下食(高カロリーのゼリー)に食事も変更となりました。

痰がらみは徐々にひどくなり、毎日の吸引が必要なものになっていきました。食べたいから、と食べ物を口にする喉の奥でゴロゴロという音が始まります。呼吸しにくそうなほどなので、看護師が吸引をします。ご本人は吸引されることも苦しくて、嫌がられます。食べたがつているから食べて欲しい、けど吸引されている苦しそうな姿はこれ以上見たいられない。これからの対応方針をご家族と考えていく時期でした。

「今後については、ご家族に判断を委ねるしかありませんでした。」

看取りを開始するまでには、何度か話し合いが必要でした。豊寿園のような特養には基本的に夜間帯には看護師はいません。積極的な痰吸引という医療行為を毎晩実施できる体制ではありません。痰が詰まれば窒息の可能性もあります。ご自分の意思をうまく伝えられない状態の磯野さんの今後については、ご家族に判断を委ねるしかありませんでした。一度は療養型医療施設へ入院する、という話も出しましたが、ご家族が住み慣れた園での看取りを希望され令和元年9月26日に看取り対応が開始となりました。

「満足感も得られないのか、手や指を口に 入れる行為が見られるようになりました。」

まずは、痰が湧き上がるのを防ぐため、嘱託医の指示で食事の摂取量を絞ることを始めました。結果、痰の湧き上がりは予防でき、吸引の頻度は下がりましたが、カロリーは少なく満足感も得られないのか、手や指を口に入れる行為が見られるようになりました。それが続き、ついには指に傷ができてしまいました。傷口は化膿していき、治療が必要になったことから、ご家族と相談し、身体拘束の同意を得たうえで、ミトンを使用することになりました。思いと裏腹な現実には職員も「ごめんなさいね」と心の中で謝りながら装着していただいていたいました。当の磯野さんは車いす上での生活でしたが、とても元気がよく、「元気よーおなかすいた〜」などよくお話ししてくれました。今なら外出も大丈夫と、ご家族とともにドライブに出発！水害にあった家の跡や娘さんのお店、お寺など回って帰ってきました。その後もう一回、自宅に短時間ですが滞在する外出が実現できました。

低栄養状態であったこともあり、かかると出来た小さな靴擦れのような血豆が、あれよあれよと悪化。毎日処置を続けていましたが、状態は悪くなる一方で、総合病院の形成外科

を受診し、軟膏や処置方法を指導していただきました。再診となったときに、「今の状態で、病院に来ることは本人に負担」と総合病院の先生が往診に来てくださいました。「今の磯野さんでは、口からの栄養も十分に摂れないことを考えると現状を維持することが精いっぱい。治ることはない」と言われ、痛みが少しでも緩和することを考えることとしました。介護職員も最初は「つらいかわいそう」と口にしていましたが、やらないという選択はせず、毎回看護師と一緒に入浴を行いました。その姿に介護職員の成長を感じました。

『食べさせたいという家族・介護の思い』と量を増やすことで、『痰が絡み窒息の危険がある』という看護師の思いとを解決する方法を探すために何度も話し合いを重ねました。1日の最後の食事を看護師が対応できる時間帯で終了することで、少しですが食事を増量することもできました。

年を越し2月のお誕生日には、ご家族が持ち込まれたプリンを、いつでも吸引できる準備をした中で食べられました。元気にされていた磯野さんも7月に入ると、居眠りがちになって昼間に臥床時間が必要となってきました。8月に入ると手指に冷感がみられ保温が必要となってきました。ご家族はコロナ禍で面会を遠慮されており、状態については電話やメールで報告をしました。お盆が近づくにつれ、摂取量がさらに低下、「食べる」と言われても数口で首を横に振られるようになりました。そして、その日は突然きました。

8月18日、前日の夜から開眼されており朝まで休むことなく過ごされました。5時、頭を動かしたり、手を口元に入れていきます。5時15分、口の中を水分で湿らせると「おいしい」と頷かれました。5時30分、呼吸に変化はありませんが、声掛けに反応がなくなりまりました。それから2分後、呼吸が急激に減少したためご家族へ連絡。職員は声掛けを続け側で見守りました。5時40分、無呼吸が続き、最後の一呼吸を確認しました。何度も磯野さんの名前を呼びましたが、いつもの反応は見られません。5時55分、ご家族が到着。最期のお別れをされました。思い出すのは、笑顔の磯野さんです。周りの人を気遣い私たちにもいつも「ありがとね」と言ってくれました。本当にお疲れさまでした。



写真 最後になったお誕生日に職員と撮った記念写真。

Summer2021

Vol.51

TOPICS

HOUJYUENS ALBUM

AREA INFORMATION

HOUJYUEN× FAMILY



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN